

養育環境格差領域

菅原 ますみ（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

1. 養育環境格差領域の研究目的

養育環境格差領域では、家庭や保育・教育施設の中での環境と子どもとの時系列的相互作用に着目し、養育者が供給するケア・クオリティや子ども自身の QOL（クオリティ・オブ・ライフ）に現れる格差が子どもの健康や発達にどのようなメカニズムで影響を及ぼすかについて、国際比較を含む複数の追跡研究プロジェクトを継続してその解明をめざしている。

【研究の目的】“社会的格差”（社会・経済・教育格差）がどのようなメカニズムで乳児から青年までの子ども期の心身の健康と発達に影響するかを複数の縦断研究プロジェクトにより実証的に検討する。

【研究の方法】

- 1) 研究プロジェクト間での仮説と尺度の共有→全体でプールしたデータを解析し、総合的な考察をおこなう
- 2) 最大3時点の縦断調査（1年ごと）を実施→変化に関する実証的な解析をおこなう
- 3) 海外でのデータ収集および海外の縦断研究プロジェクトの結果との比較研究

2. 平成22年度のおもな調査研究活動

①「保育・養育の質（ケア・クオリティ）と子どもの発達との関連に関する縦断研究」

子どもが0歳時（2004年度）に登録された643世帯に対する経年（2010年度調査で7時点目の調査を完了）のアンケート調査と、このうち185世帯に対する3回（2歳・3歳・5歳半）の観察調査を実施してきている。子どもの養育・保育環境の質を測定する観察尺度として、アメリカの国立小児保健・人間発達研究所（National Institute of Child and Human Development: NICHD）のObservational Record of Caregiving Environment（ORCE）の日本語版を原作者と共同で開発し使用した（本尺度を用いたNICHDの研究成果を翻訳し、2009年に単行本として公刊した）。ORCE尺度は養育者のケア・クオリティ（positive care-giving）を観察によって多面的に測定する尺度であり、これを家庭での養育と保育施設での保育とに同時に適用して測定をおこない、どのような社会的な要因（保育士の教育

歴や労働条件など保育をめぐる諸要因や家庭の社会経済的状況、就労を含めた親のライフスタイル、家庭内の両親の役割分担、養育者・教育者の精神的健康などが親または保育者のケア・クオリティに影響し、その結果、子どもの健康と発達がどのような影響を受けるのか検討をおこなってきている。就学前に受けた養育や保育の質が小学生期（小学校 1 年・2 年）の子どもの発達や健康にどのような関連を持つか、解析を継続している。これまでに収集した QOL に関する調査結果の一部を第 4 回 GCOE 国際シンポジウム「子どもの発達と養育環境～ペアレンティングと子どもの QOL」にて報告をおこなった。

②「養育環境が親子の QOL と子どもの心身の健康と発達に及ぼす影響に関する国際比較研究」（国際格差領域との共同研究プロジェクト）

本研究プロジェクトは国際格差領域と共同で展開しており、日本、中国、ベトナム、タイにおける調査地域の選定と質問紙の策定が終了し、日本でのプレテストを経て本調査を開始した。本プロジェクトは、①「保育・養育の質（ケア・クオリティ）と子どもの発達との関連に関する縦断研究」の日本の子どもたちを対象とする研究（5 歳半の保育・養育環境）と一部同じ尺度（NICHD 縦断研究関連尺度、親用 QOL 尺度：WHO-QOL26、子ども用 QOL 尺度：KINDL 等）を用い、その結果を比較検討する。参加国内の異なる地域で 100～200 人の 5 歳児を対象とした質問紙調査を実施し、可能な地域については 1 年後に追跡調査を行う予定である。2010 年度には、日本、中国、ベトナム、タイのそれぞれの国の研究代表者およびアメリカの NICHD の研究に携わった主任研究官（Dr. Sarah Friedman）が本学に集まり、第 4 回 GCOE 国際シンポジウム「子どもの発達と養育環境～ペアレンティングと子どもの QOL」を開催した。

③「メディア使用をめぐる環境格差の研究」 ⇒ 坂元・長谷川報告を参照

④「発達障害児の地域療育システムに関する研究」 ⇒ 小西・長谷川報告を参照

3. 実施したセミナー・シンポジウム

<平成 22 年度>

① 第 4 回 GCOE 国際シンポジウム

「子どもの発達と養育環境～ペアレンティングと子どもの QOL」

第1部のシンポジウムでは、基調講演として当プログラムの松本聡子リサーチ・フェローが、親子のQOL (Quality of Life) の縦断的研究から、QOLに影響する要因について報告し、続いて、アジアにおける子どものQOLの比較研究として、徐凌中先生（中国・山東大学）、ニチャラ・ルアンダラガノン先生（タイ：マヒドン大学）、ツアン・ディエップ・トラン先生（ベトナム：ホーチミン医科大学）、安治陽子先生（お茶の水女子大学）の4名から、各国における都市部と農村部のQOLの違いや、親子間の比較に関する調査報告を行っていただいた。

第2部は、サラ・フリードマン先生（米国CNAパブリックリサーチ研究所）に、母親への情緒的・行動的支援を長期的に行うことで、子どもにとってより良い養育環境を作ることを目的とした、母親に対する育児介入プログラム「Legacy for Children」の概要について講演をいただいた。今後、この介入プログラムの長期的影響について追跡調査が行われる。全体討論では、それぞれの国に合った介入の検討や、介入のための社会システムの重要性、その基盤となるメカニズム解明の必要性が論じられ、充実した討論が行われた。

【日時】 2010年10月5日（火）16:00～19:00

【場所】 お茶の水女子大学 共通講義棟2号館102教室

【プログラム】

第I部 シンポジウム「アジアの子どもの養育環境とQOL」

開会の挨拶 内田伸子（お茶の水女子大学）

報告講演「親子のQOLの縦断的变化とその関連要因」

松本聡子（お茶の水女子大学）

親子のQOL調査：アジア各国からの基礎報告

徐凌中（中国：山東大学）

ニチャラ・ルアンダラガノン（タイ：マヒドン大学）

ツアン・ディエップ・トラン（ベトナム：ホーチミン医科大学）

安治陽子（日本：お茶の水女子大学）

第II部 講演

「母親の養育への介入研究」

サラ・フリードマン（米国CNAパブリックリサーチ研究所）

閉会の挨拶 菅原ますみ（お茶の水女子大学 養育環境格差リーダー）

【使用言語】 英語（日本語・英語同時通訳あり）

【参加人数】 109名

② 第3回発達追跡研究のための多変量解析セミナー

「縦断データの解析：潜在クラス分析」

【日時】 2010年5月13日（木） 10：00～12：00

【場所】 文教育学部1号館1階第1会議室

【内容】

- ・ 潜在クラス分析の概要
- ・ 潜在クラス分析を使用した論文の紹介

【講師】

室橋 弘人（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター アソシエイトフェロー）

松本 聡子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター リサーチフェロー）

【参加人数】 30名